



近江八幡観光物
産協会のホーム
ページはこちら
から



ウォーターハウス記念館

今年は近江八幡の名誉市民第1号、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏の来日120年にあたります。これを記念して、ヴォーリズ氏と妻の「柳満喜子夫人」の活動の意義を継承する記念事業を展開しています。

1905年2月2日に24歳で来日した彼は、英語教師を経て建築家、実業家、キリスト教伝道者として活躍していました。近江兄弟社グループを興し、医療、教育、建築活動を通じて地域社会に貢献しました。彼は「青い目の近江商人」としても語り継がれます。キ

■ ウォーターハウス記念館（近江八幡市）

ヴォーリズ建築で西洋料理を



「喫茶室メレルの庭」がオープンしたウォーターハウス記念館＝近江八幡市池田町で

リスト教信仰と実業、社会奉仕を両立し、アメリカ製メンタム（後のメンソレータム）を日本で成功させ、その利益を医療や病院、学校に投入しました。

また、ヴォーリズ氏は全国で千を超える建築物を手がけました。その建築は住

宅から教会、病院まで多岐にわたります。近江八幡には、ヴォーリズ氏による建築物が20軒余り現存しており、春と秋に特別公開を実施し、県内外から多くのファンが参加しています。

代表的な建築としては、アンドリュース記念館、旧



ウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏の銅像＝近江八幡市新町で

中でも注目したいのが、ウォーターハウス記念館。大正・昭和前半に、ヴォーリズ氏を支えた、ウォーターハウス氏の妻ベッシー夫人、吉田悦蔵氏の妻清野夫人らによる近隣の女性たちを招いた西洋料理の教室が開かれていました。今年2月、このレシビを基に再現した料理を提供する「喫茶

室メレルの庭」がオープンしました。ヴォーリズ氏ののび、建築物の温かさを感じながら、ランチやカフェで、お話を花を咲かせてみてはいかがでしょうか。ぜひいたく時間を過ごせることと思います。

（近江八幡観光物産協会・白石昌代）

八幡郵便局、ハイド記念館などがあり、どれも温かみのある木造建築で、今なお多くの人に親しまれています。単なる建築ではなく、「人のための空間」を志向した彼の思想は、地域に根付き、今も人々の生活に息づいています。



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから